

新潟市歴史資料だより

発行 新潟市歴史文化課 歴史資料整備担当

平成29年10月10日

第 25 号

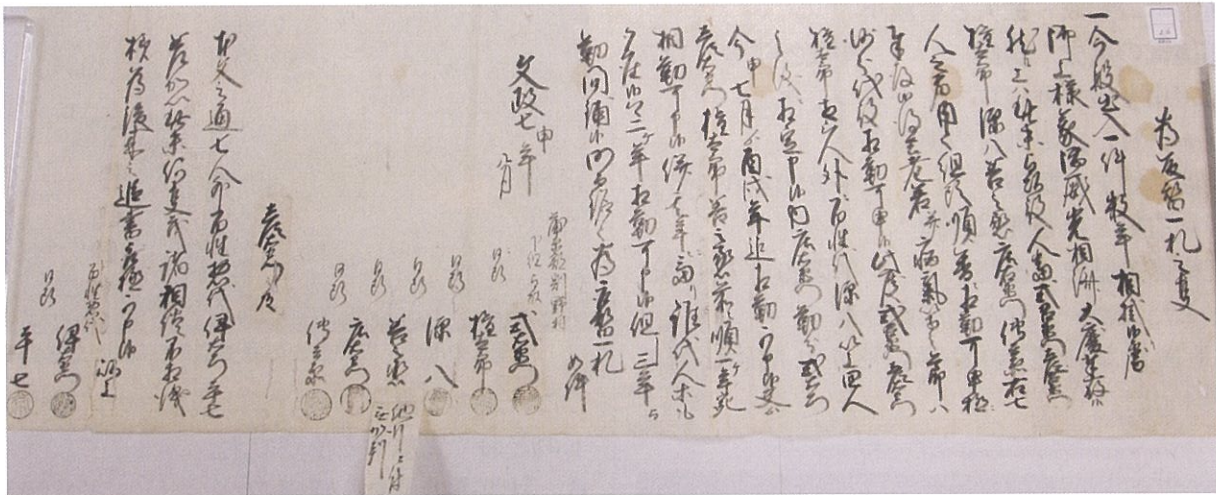
資料紹介 割野村の村方騒動 ～亀田町 押木家文書より～

掲載した資料は、文政7(1824)年の割野村(江南区)「下組」の組頭(名主の補佐役)と百姓代(百姓の代表)の選出方法の取り決めです。資料によると、組頭は式右衛門以下7名から順番に選ぶこととなり、この時は式右衛門・彦右衛門・権太郎の3名が組頭に、源八が百姓代になりました。任期は原則1年で再任もできますが、「三年と勤間鋪候」とあるようにそれ以上の留任に関しては禁止されています。また、資料末尾の奥書部分には、式右衛門以下7名に百姓惣代2名を加えて、「何事も諸相談」するようにと定められています。資料の冒頭部分に「今般出入(訴訟)一件数年相掛り候処」とあるように、この資料の背景には、数年間に及んだ割野村での村方騒動が関係しています。

江戸時代の割野村では、村人が村役人の不正を訴える村方騒動が何度か起こっています。掲載した資料より遡ること100年以上前の宝永7(1710)年には名主の不正を訴えてその罷免を求める訴訟事件が起こり、村は上組と下組に二分され、それぞれに名主が置かれることとなりました。

文化14(1817)年には再び村方騒動が起こります。当時庄屋(この頃には庄屋はひとりであったようです)を務めていた上組出身の弥忠治の不正を下組が訴えましたが、弥忠治の行ないは改善されませんでした。そこで、文政6年に再び下組は訴訟を起こし、下組にも庄屋を置くように桑名藩(三重県)の柏崎陣屋(当時の割野村は桑名藩預地)に願い出ました。

再度の訴訟の結果、下組にも正式に組頭・百姓代が置かれ、資料のような取り決めが交わされることとなりました。この文書からは、積極的に村政に参加しようとする割野村の人々の意識が感じられます。



為取替一札之事

一、今般出入一件数年相掛り候処、御上様蒙御威光相濟、大慶奉存候、然ル上ハ此末与頭役人当式右衛門、彦右衛門、権太郎、源八、善之丞、庄右衛門、傳兵衛右七人之者、内々組頭順番ニ相動可申極ニ奉存候得共、老若并病氣等之節ハ何分代役相動可申候、此度式右衛門、彦右衛門、権太郎両三人、外二百姓代源八以上四人之儀ニ相定申候、内庄右衛門勤分式右衛門、今申七月より西戌年迄相動可申候、夫より彦右衛門、権太郎、善之丞前二順一ヶ年宛相動可申候、併其年二当り誰代人等も御座候ハ、二ヶ年相動可申候、但し三年と勤間鋪候、仍而銘々為取替一札如件

文政七年 蒲原郡割野村

八月 下組与頭 式右衛門④

同断 権太郎④

同断 源八④

同断 善之丞(張紙) 他行二付 無加判

同断 庄右衛門④

同断 傳兵衛④

彦右衛門殿

本文之通、七人外百姓惣代伊右衛門、平七

差加い、此末何事も諸相談不相洩

様為後來之追書取極可申候、以上

百姓惣代 伊右衛門④

同断 平七④

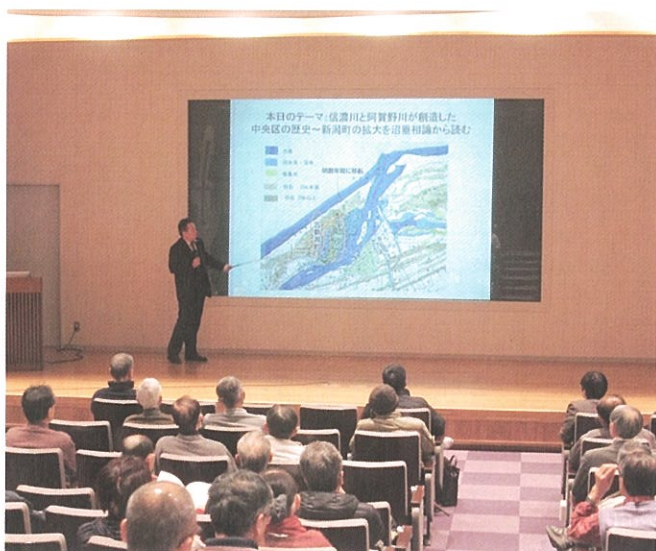
**事業紹介 「新潟市のあゆみ」
各区の歴史講座**

新潟市は、平成17(2005)年の市町村合併を受けて、平成19年4月に8つの行政区をもつ本州日本海側初の政令指定都市となりました。

この区制移行10周年記念事業として、昨年3月に当課では、新潟市全体の歴史に「各区の歴史」を加えた『新潟市のあゆみ』(増補改訂版)を発行し、現在各区の歴史を解説する講座を実施しています。

この講座では、当課の職員により「区の歴史の概要紹介」と「資料紹介」を行っています。本年9月までに5回の講座が行われました。各区の概要紹介と資料紹介のテーマは次の通りです。

1. 東区の歴史 講座 平成29年1月21日
 - ・二大河川(信濃川・阿賀野川)が作りだした東区のあゆみ
 - ・阿賀野川だった通船川
2. 中央区の歴史 講座 平成29年3月4日
 - ・港とともに発展を続ける“みなとまち”
 - ・新潟町の形成・拡大と信濃川
3. 西蒲区の歴史 講座 平成29年5月13日
 - ・角田山を望む歴史ロマンが息づく郷土
 - ・五ヶ浜村と角海浜村の漁場争い
4. 南区の歴史 講座 平成29年6月17日
 - ・中ノ口川と歩む進取の地
5. 江南区の歴史 講座 平成29年7月29日
 - ・水とたたかい、育んだ江南の地
 - ・「地図にない湖」の世界に開かれた砂丘列の村々



中央区の歴史 資料紹介(クロスバルにいがた)

参加者の講座後のアンケートには、次のような御意見や感想が寄せられました。

- ・地域の歴史を知る有意義な時間となった。
 - ・区の歴史が、とてもよくわかった。
 - ・信濃川と阿賀野川が昔は同じ河口だったなど、初めて知ることが多かった。
 - ・書物で読んでわからない事が、話を聞いてよくわかった。
 - ・長い歴史をよくまとめてあった。
- また、ご要望としては、次のようなものがありました。
- ・時間が短かった。もっと長く聞きたかった。
 - ・テーマやトピックを絞って、詳しく話が聞きたかった。
 - ・ぜひこれからもこのような講座を行ってほしい。
 - ・区の歴史だけでなく、各地区の歴史などもっと詳しく知りたい。



江南区の歴史 区の歴史の概要紹介(江南区文化会館)

これからの講座については、3つの区について以下のとおり実施する予定です。

6. 秋葉区の歴史 講座 平成29年12月
 - ・大地と里山とともにのびゆく郷土
7. 西区の歴史 講座 平成30年1月
 - ・砂丘地と西川低地のくらし
8. 北区の歴史 講座 平成30年3月
 - ・阿賀北の豊かな自然とともに

約1か月前に市報やチラシ等で広報いたします。引き続き、多くの市民の方々のご参加をお待ちしています。

なお、『新潟市のあゆみ』(増補改訂版)は、白山浦庁舎1階の歴史文化課にて配布しております。新潟市内や各区の歴史探訪などに、活用ください。

新潟の歴史こぼれ話(10)

4代目市役所屋上の「いつくしみの鐘」

「昔、市役所の屋上から夜になるとメロディーが聞こえてきた記憶があるのだが、何だろう？」というお問い合わせが何度かありました。これは「いつくしみの鐘」でした。

新潟市は昭和33(1958)年、青少年の育成を目的とした協議会を発足させました。その活動の一環として、青少年の帰宅を促すために、同年竣工したばかりの4代目市役所(現NEXT21)屋上に愛の鐘を設置することになり、市民から歌詞や名前を公募しました。

これは「いつくしみの鐘」と命名され、入選した歌詞にNHKの専属音楽家がメロディーをつけた鐘の

音が、昭和34年8月頃から午前7時・午後8時・午後10時の3回流れるようになりました(歌詞参照)。

なお、この「いつくしみの鐘」に呼応して、午後8時には小林百貨店(現新潟三越)屋上から「埴生の宿」のメロディーサイレンが鳴り、西堀の15の寺が鐘を打ち鳴らしたそうです。市役所界隈の夜は、大変にぎやかな様子であったことが伺えましょう。

いつくしみの鐘
石山シヅ子作詞

一、朝風に
やなぎの小枝がゆれる
いとし子よ
すこやかに
清らかに
いつくしみの鐘はなる
母の折りをこめて

二、大空に
キラリ、北斗がひかる
いとし子よ
やすらかに
あたたかに
いつくしみの鐘はなる
母の折りをこめて

(歌詞は市長入り募ったもの入選作である)
(作曲者はNHK専属の音楽家である)

歴史文化施設紹介

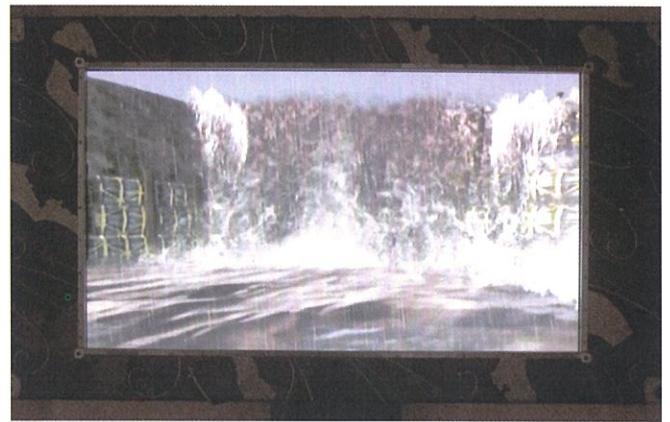
映像やジオラマで歴史を“体感”！
新潟市歴史博物館

新潟市歴史博物館は、平成16(2004)年の開館以来、「みなとぴあ」の愛称で人々に親しまれています。本館2階の常設展示は、「郷土の水と人々の歩み」をテーマとし、新潟の歴史や人々の生活と「水」との関わりについて紹介されています。

常設展示の見どころのひとつが、随所にある映像・音声による展示です。説明映像だけではなく、松ヶ崎掘割を取り上げた5分を超えるアニメーション映像などもあり、歴史的な出来事を楽しみながら学ぶことができます。また近代大衆文化の展示では、当時のレコード音源を聴くことができたり、新潟大火や地盤沈下など、災害・公害を紹介する展示では、被害を伝える当時の映像・音声が視聴でき、当時の様子を目や耳で感じることができます。

この他にも、深田での稲の収穫の様子を実物大で再現したジオラマや、初代萬代橋の模型など、現在では見るができなくなった風景を、細部まで表現した展示も見どころです。

新潟の歴史と文化を“体感”しに、新潟市歴史博物館へ足を運んでみてはいかがでしょうか。



松ヶ崎掘割決壊の様子をCG映像で再現



実物大で再現された「収穫の風景」

所在地 新潟市中央区柳島町2-10

電話 025-225-6111

開館時間 9:30~18:00(10~3月までは17:00まで)

休館日 月曜日(祝日は開館)、年末年始(その他休館日あり)

入館料 一般300円、高校生・大学生200円、小中学生100円(その他企画展の入館料は異なります)

写真紹介

にぎやかだった古町 ～活動写真の時代～

大正から昭和初期にかけ、古町通は新潟を代表する繁華街でした。大正3(1914)年には初の常設活動写真館(映画館)大竹座(古町通8番町)が開館し、その後相次いで、電気館(同6番町)などの映画館が開館し、にぎわいに華を添えました。

なかでも古町通6番町は、新興の盛り場として新潟一の繁華街となり、電気館やカフェ、勸商場などに多くの人々が集まりました。夜は、古道具屋、メリヤス屋、古本屋、植木屋などの夜店が道の両側を埋め尽くし、毎夜大勢の人々でにぎわいました。

写真1 古町通8番町の写真です。大竹座の前に、「大竹座主」「大かつ興行部」の幟のぼりが見られます。大竹座は、明治19(1886)年に開かれた劇場 寿座を全面改築し活動写真館となりました。人々の関心が、芝居や寄席から活動写真へと移ったことを示しています。現在、跡地では大竹座ビルディングが営業を行っています。手前左の看板の店は、今も営業を続ける八百重商店です。

写真2 榎谷小路から白山方面を写した古町通6番町の昼と夜の絵葉書です。道路竣工の祝門と映画の宣伝から大正13年頃と推測されます。昼の写真には、舗装工事竣工の華やかな祝門や大売出しの幟などが見られます。祝門左柱には「電気館」、右柱には「建国の乙女」(映画タイトル)と宣伝が書かれています。夜の写真からは、大勢の人が古町に繰り出し、夜店を楽しんでいたようすが伝わります。

写真3 古町通6番町の中央付近から白山方面を撮った写真です。2つの三角屋根をもつ建物が電気館です。幟をたくさん掲げ、新潟一の繁華街でも一際目を引く存在で、人気の映画に人々が集まりました。電気館の周りには、だんご屋や料理店などが集まり、向かいでは絵葉書店がプロマイドなどを売っていました。現在、電気館跡地の向かいでは古町演芸場が大衆演芸を市民に提供しています。



写真1 古町通8番町 大竹座(年代不詳)



写真2 新潟名所 古町通6番町(大正13年頃)



写真3 古町通6番町 電気館(年代不詳)

市民の皆様へのお願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、お知らせください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

編集・発行 新潟市文化スポーツ部
歴史文化課 歴史資料整備担当

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602番地1
(白山浦庁舎1号棟1階)
TEL 025-226-2584
FAX 025-230-0412
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp